

10
年にわたり連続演奏した「ドイツ・ロマンをもとめて」シリーズでは、十全のテクニックによって紹介

Tsuko Tazaki

東京生まれ。桐朋学園で井口秋子に師事。学生音楽コンクールに優勝。1960年にフルピアノ奨学金を得て茱萸アード音楽院に留学。ニューヨークを拠点にアメリカやヨーロッパで活躍。アメリカ建国200年祭では、アメリカを代表する10人のピアニストに選ばれた。桐朋学園大学特任教授を務めている。

さて今回、バッハの「平均律クラヴィーア曲集」第1巻によると、世界の第一線にいるピアニストであることを証明してみせた。彼女は常に聴衆の期待を裏切り続けていたのだ。

ぎだされる高い音楽性によって、彼女が世界の第一線にいるピアニストであることを証明してみせた。その後は一転して、音楽のジャンルなどを作曲家のジグソーパズルのように組み立て、その身の語りと演出を加えた音楽による自叙傳「ピアノ・ストーリー」を開催。シリーズにして、さらには2003年には自身の語りと演出を加えた音楽による自叙傳「ピアノ・ストーリー」を開催。そこで、彼女は常に聴衆の期待を裏切り続けていたのだ。

「平均律はずっと以前から、ピアニスト人生をかけて演奏会にかけたいと思ってました。カザルスにマーチボロ音楽祭で出会い、すべての音楽の根幹をなすような深い心にありました」

スマ・チエリストのバッハ演奏は、その強烈に個性的な演奏スタイルにもかかわらず、今も愛されている。バッハ演奏を聴いてから、ずっとバッハは心にあります。

スマ・チエリストのバッハ演奏は、その強烈に個性的な演奏スタイルにもかかわらず、今も愛されている。バッハを弾くのは大変。姿勢を正して謙虚に音楽に向かわないこと、何も出てこないが、それこそ穴が開くほど楽譜を読み込まなければ」

新作を書く原田さんは、99年に草津音楽祭で運命的に出会ったとか。「バッハを弾くのは大変。姿勢を正して謙虚に音楽に向かわないこと、何も出てこないが、それこそ穴が開くほど楽譜を読み込まなければ」

初めて会った日の晩には、口角に泡を飛ばして大議論。音楽だけじゃなく人生のすべてについて、何でも話せる人に巡り合ったんです。それ以後も年に数回しか合わせないのに、会えばいつも親友のように、しゃべり続けています。そんな中で、平均律を弾きたいたいと思っているが、プログラムとしては工夫したい。平均律をもともと書いた曲は考えられるかしら?」

聞いたら「恐れ多いことだけど、やつてみたい」ということになつた。18歳でニューヨークへ行って、わけわからず前衛グループに引き込まれて実験的な作品をたくさん弾いた経験が、原田さんに曲を書いて

田崎悦子 リサイタル

バッハにはもちろんのこと
親友にも最大限の敬意をもつて



Etsuko Tazaki
東京生まれ。桐朋学園で井口秋子に師事。学生音楽コンクールに優勝。1960年にフルピアノ奨学金を得て茱萸アード音楽院に留学。ニューヨークを拠点にアメリカやヨーロッパで活躍。アメリカ建国200年祭では、アメリカを代表する10人のピアニストに選ばれた。桐朋学園大学特任教授を務めている。

入賞者たちのその後の目ざましい活躍によって、浜松国際ピアノ・コンクールは世界の注目を集めている。その立役者のひとりがダイケトル・リヤードだ。1995年の第2回で優勝。その後、審査委員長を務める中村紗子氏の招待で、96年に日本でマスタークラスを開催。その後も継続的に行なつていている。この6月にも来日している。

「今年からカワイ音楽振興会のマスタークラスと公開レッスンも始まりました。ピアノを勉強中の生徒さんたちだけでなく、先生方もいらっしゃるんですよ。日本の方々は本当に勤勉で、楽譜の読み込みも深い。でも、残念なことに、心の内面をさき出しがあまり上手ではないようです。作品は作曲家の心が生み出されたもの。演奏家の心の振動を表現しない

「今年からカワイ音楽振興会のマスタークラスと公開レッスンも始まりました。ピアノを勉強中の生徒さんたちだけでなく、先生方もいらっしゃるんですよ。日本の方々は本当に勤勉で、楽譜の読み込みも深い。でも、残念なことに、心の内面をさき出しがあまり上手ではないようです。作品は作曲家の心が生み出されたもの。演奏家の心の振動を表現しない



Victor Lyadov

ロシア生まれ。モスクワ音楽院、同大学院でニコライエワに師事し、修了後はアシスタントを務めた。シューマン・コンクール、エリーザベト・コンクールなどで入賞。94年浜松国際ピアノ・コンクールで優勝。モスクワを拠点に、ヨーロッパやアメリカで活躍。マスター・クラスでの指導にも積極的に行なっている。

ヴィクトル・リヤードフ リサイタル

ロシアの伝統を伝えられるのが
心からの喜びです

取材・文:堀江昭朗

と、生きた音楽にならないです
もちろんマスタークラスとともにリサイタルも開催。11月にも来日して、その妙技を聴かせてくれます。今回は「イタリア音楽紀行」と題し、イタリアからインスピアされて書かれた作品を並べる。

「プログラムは、いつもテーマを持たせるようになります。6月にはショパンとその影響を受けて作曲された作品を交差し並べました。今回は前半にイタリアの作曲家、後半にはイタリアに寄せる思いを表現したイタリア以外の作曲家を配置して、イタリアを旅するような構成にしました。また、パロックのマルチエッロから始まり最後は近・現代のブーランケで終わると

いうように、時代をも旅することになります。メンデルスゾーンの「舟歌」には、「展覧会の絵」の「プロムナード」のよしな役割を果たしてもらいます。

今回のプログラムは、今までの旅分と時間を割いて、詳しく話をしてくれた。次のプログラムの企画も、もう考えてい

うにしています。6月には、ビアンキとの共演で、演奏会にかけたいと思っています。偉大なピアニストの演奏をうなづかせて、演奏という形になつても、その教えすべてが演奏という形になつても、また、そうして受け継いだロシアの伝統を、こうしてロシア国外で伝えられることがあります。

リヤードフは、ロシアン・ピアニズムの正統的な後継者としての評価も高い。「教えてくださったすべての先生に感謝しています。中でも10年の付き合いがあったニコライエワ先生には、語り尽くせない思いがあります。偉大なピアニストの演奏をうなづかせて、演奏という形になつても、その教えすべてが演奏という形になつても、また、そうして受け継いだロシアの伝統を、こうしてロシア国外で伝えられることがあります。

二コライエワ先生には、語り尽くせない思

いがあります。偉大なピアニストの

演奏をうなづかせて、演奏

という形になつても、また、そうして受け継いだロシアの

伝統を、こうしてロシア国外で伝えられることがあります。

リサイタル

11月5日(金) 19:00開演
東京文化会館小ホール

曲目:
J.S.バッハ: 平均律クラヴィーア曲集第1巻より
バルティータ第6番 BWV830
原田敏子: NACH BACH (後編)

12月21日(火) 19:00開演
東京文化会館小ホール

曲目:
J.S.バッハ: 平均律クラヴィーア曲集第1巻より
バルティータ第4番 BWV828
原田敏子: NACH BACH (後編)

問合せ: イマジン・チケットセンター
☎03-3235-3777

リサイタル

「イタリア音楽紀行」

11月16日(火) 19:00開演
大阪/ザ・フェニックスホール

曲目:
メンデルスゾーン: ヴェニスのゴンドラの舟歌(3曲)《無言歌集》より

マルチエッロ: 協奏曲 二短調
スカルラッティ: 3つのソナタ
クレメンティ: ソナタ 哺へ短調
ショパン: バガニーニの思い出(ヴェニツィアの謝肉祭)
タランテラ Op.43

リスト: 巡洋の年第2年品選
《ヴェニツィアとナポリ》
フーランク: 総曲《ナポリ》

ピアノセミナー・イン大阪
11月17日(水)~22日(月)
大阪/ピアノサロン・遊音堂

問合せ: リヤードフ・ピアノセミナー実行委員会事務局 ☎06-6543-1729